

17人の市議員が市の考えを問う

平成31年 目次
3月4日・5日・6日

平成31年 第1回甲賀市議会定例会一般質問

順番	氏名	質問事項	順番	氏名	質問事項
1	たなか よしかつ 田中 喜克	<ol style="list-style-type: none"> 1 貴生川駅周辺整備の必要性和甲賀市の将来のまちの姿について 2 甲賀市の学校教育現場の現状と教育の環境について 3 選挙開票不適切処理の検証と市の法令順守の現状について 	9	おかだ しげみ 岡田 重美	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校給食費の無償化を求める 2 (仮称) 甲賀北地区工業団地への産業廃棄物関係企業の進出について 3 安全安心な住まいの提供のため市営住宅の建替えを 4 土山のコミタク運行とコミバスの年末年始の運行改善について
2	えびすわき ひろし 戎脇 浩	<ol style="list-style-type: none"> 1 朝ドラやホストタウンをいかにシティセールスに活かすのか 2 部局横断型課題解決チームのより効果的なあり方について 	10	たなか あらと 田中 新人	<ol style="list-style-type: none"> 1 甲賀市農業の現状と方向性について 2 運動能力の向上について
3	しらさか まりこ 白坂 萬里子	<ol style="list-style-type: none"> 1 入管難民法改正に向けた本市の取り組みについて 2 8年が経過する、自治振興会によるまちづくりについて 3 民間保険の活用で、認知症家族に負担軽減を 4 肺炎球菌ワクチン、丁寧に周知し接種率の向上を 	11	はしもと りつこ 橋本 律子	<ol style="list-style-type: none"> 1 新年度予算(深化予算)とオール甲賀について 2 ボランティアの息づく街づくりを
4	つじ しげし 辻 重治	<ol style="list-style-type: none"> 1 高間みずべ公園の整備について 2 名神名阪連絡道路の促進について 3 甲賀の茶及び甲賀の地酒を信楽焼の器でもてなす条例について 	12	やまおか みつひろ 山岡 光広	<ol style="list-style-type: none"> 1 高すぎる国民健康保険税の引き下げを 2 子どもに対するインフルエンザ予防接種に助成を 3 重いランドセル・教科書の改善を求める 4 保育園と学童保育所の待機児童の解消を 5 第三セクター「あいコムこうか」の経営健全化方針について
5	ほり いくこ 堀 郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1 オープンデータについて 2 SNSでの相談窓口について 3 AED併設のデジタルサイネージの導入について 4 図書館のあり方について 5 学校発ESDについて 	13	たになが けんじ 谷永 兼二	<ol style="list-style-type: none"> 1 開発事業における良好な実施について 2 児童虐待の現状と対策について 3 終活に関する行政による終活支援事業について
6	うかい いさお 鵜飼 勲	<ol style="list-style-type: none"> 1 衆院選での市選管による白票水増し事件について(その2) 	14	つちやま さだのぶ 土山 定信	<ol style="list-style-type: none"> 1 クリーンセンター滋賀の、セレン及び遮水シート破損について 2 児童の道路に関する安全対策について
7	いとめ まさき 糸目 仁樹	<ol style="list-style-type: none"> 1 甲賀忍者を主役にした大河ドラマの実現を 2 障がい者へ配慮ある防災対策・連携体制構築を 	15	たけわか しげくに 竹若 茂國	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉法における障害児支援について 2 子どもの虐待について 3 子ども食堂と子どもの貧困について 4 手話通訳の派遣に伴う費用の負担について 5 甲賀北工業団地について 6 市街化調整区域の空き地、空き家の活用について
8	やまなか しゅうへい 山中 修平	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭ごみの捨て方と回収事業について 2 スマホルールの周知のための通達と広報について 	16	やまなか よしはる 山中 善治	<ol style="list-style-type: none"> 1 人権尊重によるまちづくりを問う
			17	おがわ ふみと 小河 文人	<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史文化を生かした観光まちづくり 2 幼保小中学校再編計画について

一般質問

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。

QRコードで質問の録画が見られます。



田中 喜克



Q 貴生川駅周辺整備の実現は
A 目標年次2040年に

Q 駅周辺都市づくりで目指す町の姿と必要性は。

総政部長 貴生川駅周辺が持つ、市外への人口流出を留める「人口ダム」機能を更に発揮させると共に、経済的に周辺地域を牽引する「特区」にする。事業手法も官民連携による民間活力の導入を視野に進める。

Q 整備区域と整備施設は。

建設部長 整備区域は駅を中心に半径800m。北側の丘陵地、南側柚川も越えた区域の連携整備も必要。商業施設やホテル等の市外の住民を呼び込み滞留させる交通結節点としての施設整備をする。

Q 構想実現に向けた思いは。

市長 駅周辺整備は近畿圏の東の玄関口、その重要性と合わせ甲賀市発展の最重要施策、オール甲賀で集中的に取り組む。



貴生川駅周辺整備計画予定



戎脇 浩



Q シティセールスの重要性は
A 市民も発信者となる施策を

Q NHKの朝ドラ、2020東京オリパラにおけるシンガポールのホストタウンなど、我が甲賀市を売り込む絶好のチャンスと考える。

Q シティセールスに朝ドラをどう活かすのか。

産経部長 信楽だけでなく全市的なロケ地を周遊する体験型観光の推進やロゴを活用した商品開発などを推進し、また一過性に終わらせない仕掛けづくりに取り組む。



信楽焼展示

Q ホストタウンはスポーツだけではなく、経済・観光面で活かす必要があるのではないか。

産経部長 シンガポールでの観光ブースの出展やバイヤーの招聘などにより、多様な観点での交流を推進する。

Q 全職員の意識向上の必要性は。

市長 職員が部局横断で取り組むことを通して、市民がまちに誇りを持ち、自ら発信者となっていただけのような仕掛けづくりが重要であると考える。



白坂萬里子



Q 認知症家族に民間保険で負担軽減
A 保険制度について鋭意研究

Q 徘徊する認知症高齢者の事故リスクや、介護家族の負担軽減とする為、民間保険を活用した支援を提供しては。

市長 市としてもできる限りの支援が必要と考えるが県内での取り組みはまだない。今後認知症高齢者の増加と共に注目される取り組みとしますので提案いただいた保険制度を鋭意研究していく。

Q 厚労省は肺炎球菌ワクチンの定期予防接種を5年間延長すると決定。その理由の一つに周知が不十分との声があることから、本市の接種率向上に向けた今後の計画を問う。



健康部長 平成30年度の対象者は5361人に対して12月末で2081人の38・8%。このことから更に、周知啓発を丁寧に取り組み個別通知や再度の勧奨を検討していく。

その他、「入管難民法改正に向けた、本市の取り組みについて」「8年が経過する、自治振興会によるまちづくり」について質問しました。

一般質問

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。

QRコードで質問の録画が見られます。



辻 重治



Q 高間みずべ公園の整備は
A 随時改修を行う

Q 高間みずべ公園は水と緑豊かな水辺空間の創造をめざして整備された公園である。施設の改修と利用促進及び周辺整備の状況を伺う。

建設部長 施設の

中で危険性の高い箇所を優先し補修を行う。また、期間中の管理は2人体制で安全管理を行う。

市長 砂防ダムなら

ではの学習で、大雨体験機があるが、大量の水道水とポンプ、音響設備などの不具合は慎重な検討が必要。

教育長 水質の安全なことから青少年の野外

体験活動等に有効活用する。

産建部長 周辺環境は、地元生産森林組合が造林事業など活用し、良好な森林環境が保たれている。

その他、「名神名阪連絡道と重要物流制度事業との関連促進」おもてなし条例関係について質問しました。



堀 郁子



Q 「LINE相談窓口」を導入しては
A 他市の状況や有効性を調査したい

Q 中高生や若者対象にLINEで相談窓口を設置して、イジメ相談や恋愛、性の問題のガールズ相談、子育て相談をしてはどうか。

教育部長・こ政部長 他市の状況を研究する。

道路の改善要望もLINEで受けては。

建設部長 調査し検討する。

緊急時の情報収集もLINEで受けては。

危機統括監 研究する。

Q 公民連携して地域の活性化を図るため、市の色んな情報をオープンデータ化しては。

総政部長 市民が求めるオープンデータ化が

何か、費用対効果を見極め研究する。

Q 図書館で持込勉強が出来たり、コーヒーを飲みながら読書が出来るようにしては。

教育部長 今後の新しい図書館運営方法の参考にしたい。

Q 子ども達の生きる力を育てるため、教科横断的に学んだり、主体的対話的な学習が出来る

ESDを取り入れてはどうか。

教育長 市もESDの

理念を反映している。



鵜飼 勲



Q 衆院選での白票水増し事件
A 確実性のある情報を公開していく

Q 第三者委員会からの最終報告に対する所見。
市長 全職員に法令遵守の意識付けを徹底する。

Q 職務命令により自宅待機を命じている関係職員に対する給与未払いについて違法性が指摘されている所見。

市長 当事者が自ら出頭し事実を認めている、退職願いが提出され勤務実績がない、さらには道義的見解、市民感情に鑑み総合的に判断した。

Q 弁護士が関係者から聞き取った報告書が、当初の公開から一転非公開となった。市民が納得できる説明責任に対する所見。

市長 何かを隠そう

とか、市民の皆様方に都合の悪い情報が載っているのでは決していない。

Q 副市長が投票日の数日後に不正を知っていた可能性があると報道に対する所見。

副市長 不適正事案

を認識できる相談・報告はなかった。

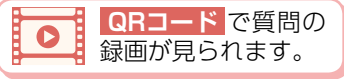


甲賀市選挙事務不適正処理再発防止委員会

選挙区内の議員に対し、寄付を出すように勧誘や要求をすることは禁止されています。

一般質問

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。



糸目 仁樹



Q 甲賀忍者主役の大河ドラマ実現を
A 民間・市民の盛り上がりが必要

甲賀忍者が活躍したとされる鉤の陣題材の大河ドラマを実現し、甲賀忍者を広く発信出来ないか。同題材で小説も発売された。NHK「まんぷく」の効果は大きく、モデルの即席麵の売上が過去最高に。今秋の「スカーレット」に続いて期待したい。

市長 「スカーレット」で得た繋がりは大切。紹介の小説は熟読し、栗東・湖南市長にも勧めた。ただ、行政主導誘致よりは、民間・市民の盛り上がりが必要です。議員の協力も欲しい。
Q 災害避難に障がい者へ配慮が必要。(オストメイト事例紹介) 必要物資や要配慮者情報を医師、訪問看護師、薬剤師等と平時の情報共有体制を構築できないか。

危機統括監 大災害時に甲賀保健所内に地域保健医療拠点が設置され市も参画。ここで情報共有され要配慮者への必要物資が供給可能になる。



鉤の陣を題材にした小説「神遊の城」



山中 修平



Q 家庭ゴミ回収事業のあり方は
A 社会の変化を見据え充実を図る

Q 生ゴミ堆肥化事業の現状は。

市環部長 平成29年の参加は9051世帯で、2年前より多いが、物量は13000トンで、83%に減っている。登録はするが生ゴミを出さない世帯が増えており再検証する時期にある。

Q スプレー缶は穴を開けなくてもよいのか。

市環部長 安全な回収方法に改善したので開けなくてもよい。パッカー車で圧縮回収する燃えるゴミに混ぜないように要望する。

Q 分別したゴミの再利用や最終処分形態は。

市環部長 ペットボトルは卵のパック等に、プラスチックは固形燃料に、発泡スチロールは建設資材等に、牛乳パックは紙製品に、食用油はディーゼル燃料に、乾電池と蛍光灯は埋立処分する。

Q ゴミ袋への記名の見解は。

市環部長 強制はしないが、貴重品や危険物の誤入時の連絡のため、小さな字で書いて頂いてもよい。



小さくとも記名が望まれるゴミ指定袋



岡田 重美



Q 学校給食費の無償化を求める
A 引き続き慎重に研究をしていく

Q 全国の自治体で学校給食費の無償化が広がっている。本市も無償化に踏み切るべき。

市長 財源の確保とともに、市全体の中で幅広く検討する必要がある。引き続き研究していく。

Q (仮称)甲賀北地区工業団地へ産廃業者の進出希望があるが、地元自治会では反対の意思表明がある。地元の声に対する認識は。市は事業に責任を負う立場、傍観していないのか。

建設部長 特定の企業の進出における事業に対する反対と考える。事業実施者である土地区画整理組合の意向に沿って対応する。

市長 企業の方針は組合が決定すること。違法行為には対応する。

Q 老朽化した市営住宅は、住み替え推進でなく、建て替えをするべき。

建設部長 建て替えの方針については、国の公営住宅に対する動向を注視し、老朽化した多くの市営住宅に対応していく。



一般質問

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。

QRコードで質問の録画が見られます。



田中 新人



Q 農業競争力強化支援法は

A 資材価格引下げや流通等合理化

Q 水田フル活用を通じた水田農業の振興取り組みは。

産経部長 麦・大豆等の高品質化やトマト、ネギ、人参、玉ネギなど重点作物を定め野菜等の産地づくりと、飼料米への支援を行っている。31年産の農業政策支援は。

産経部長 転換作物拡大加算は引き続き継続。緊急転換加算は、平成31年度に限り加算。戦略作物助成や産地交付金は継続支援である。

Q 農業競争力強化支援法について伺う。

産経部長 農業者が自由に経営展開できる環境を整備し、農業資材価格の引き下げや流通等の合理化を推進するものである。

Q 子どもの体力向上で外遊びの推奨と啓発を。

教育部長 幼児期、児童期に多くの友達と関わり、自ら遊び、多様な動きを経験できることは重要で、保育園や幼稚園、小学校、総合型スポーツクラブ等と連携し保護者への啓発に取り組む。



練習に励むスポーツ少年団



橋本 律子



Q 合併特例債活用では確かな検証を

A 市民との対話で事業精査する

Q 合併から15年目、合併特例債事業の成果と一定の目途を迎えるところだが、今後の考え方は。

総政部長 老朽化した施設整備は長年の課題。有利な財源を教育環境等の施設改修・防災拠点となる庁舎建て替えの市勢発展の事業実施。活用できないと財政圧迫となる。市民との合意形成を図っていく。

Q 期限延長による計画変化と財源の考え方は。

総政部長 必須の財源と認識。5年延長による事業精査が必要と考える。限度額総額は442億7880万円。将来を見据えた活用へ。

Q 公共施設等総合管理計画での削減目標は。

総政部長 40年間で総床面積の30%を削減目標とし、最適化へ。

その他の質問

①オール甲賀の視点で公民連携。

②ポランティアの息づくまちづくりが必要。



5月18日竣工の市民活動センター「まる一む」(合併特例債事業)



山岡 光広



Q 高すぎる国保税、引き下げを

A できる限り負担を軽減する

Q 所得に対して国保税が高すぎると思うがどうか。子どもにかかる均等割軽減を。県が示した標準保険料額は18市町が引上げとなっているが、これ以上の負担増は家計を直撃する。少なくとも現行据え置き、引き下げすべき。

市環部長 負担率が高いと認識している。決算剰余金や基金の活用を検討してできる限り負担を軽減するよう努力していく。

Q 文科省からも改善の通知が出されている「重い」ランドセル。例えばランリュックにするとか、教科書や教材のあり方も改善すべき。

教育長 昨年9月の通知以降、持ち帰るものと置いてよいものを区別し職員で確認するなどの工夫している。市内小学校では、ランリュック推奨7校、ランドセル推奨が3校、どちらでも可が11校。児童に過度な負担を強いることのないよう各学校に指導していく。





一般質問

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。



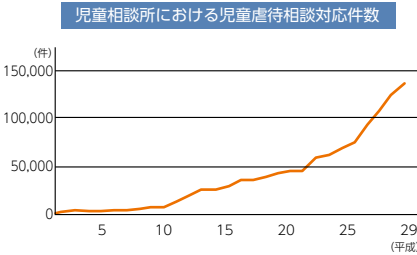
谷永 兼二



Q 児童虐待をなくす取り組みは
A 関係機関連携や地域全体での支援

Q 本市家庭児童相談室での虐待件数と傾向は。
こ政部長 平成29年度は450件と年々増加している。また、虐待種別としては、心理的虐待が増加している傾向にある。

Q 一つ一つの小さな兆候も、関係機関の情報を一元化すれば重大な事例の発見につながる。助けてという子どもの声を受けとめ、犠牲になる子どもを無くさなくてはならない。相談件数が増加している等の現状に関しての所感。
市長 要保護児童対策地域協議会での個別ケース検討会議において、関係機関と連携を図り、一人ひとりにきめ細やかな支援対策を行っている。今後も引き続き、子どもたちの生命の安全を第一に据え、関係機関、地域の民生児童委員・主任児童委員のみなさまなど連携を密にし、地域全体で支えながら、支援していくことが虐待のない社会をめざす上で重要であると考えている。



土山 定信



Q 児童の道路に関しての安全確保は
A 関係機関と協議して進めていく

Q 学校施設の間を一般車両が通る道路はどうしても子どもたちが横切る必要が多くあり、12月議会の一般質問において、安全について関係機関と協議すると答弁があったが、その後の進展について問う。
教育部長 滋賀県公安委員会に問い合わせたところ、スクールゾーンの表示をすることができるところを確認したので、具体的な方法について、関係機関とより良い方向で進めていく。

Q 土山小学校横のバス停からの通学路は、歩道は狭く、水が溜まっていると、前回質問した対応について再度聞く。
教育部長 安全の為に、国道一号横の歩道整備が必要であると認識している。滋賀国道事務所に要望したところ、前向きな検討をするという聞いており、今後関係機関と通学路の安全について協議していきたい。



市内5か所ある、学校施設内を横切る道路



竹若 茂國



Q 地元不同意甲賀北工業団地を問う
A 地域の未来につながるよう支援

Q 地元は工業団地は必要ないと反対を表明、市はこれをどのように受け止めているのか。
建設部長 早急に地元が調整され、市は事業が進むよう対応する。

Q コミュニティが壊れそうな状態にある。このまま進めるつもりか。
市長 市としても重要な事業であり、しっかりと事業支援を行う。



(仮称) 甲賀北工業団地予定地

Q 「健康課題を抱えた児童」のデイサービス利用日数を増やしてほしいとの声があるが。
健福部長 保護者や利用者の意向を大切に利用計画を作成する。

Q 「こじか教室」の利用日数を増やせないか。
こ政部長 2020年度以降、甲南第一市民センターに移転時に週2回の方向で考える。

Q 市街化調整区域の空き地、空き家の活用を。
建設部長 一部規制緩和により効果が出ている。これからも空き地、空き家の活用を進める。

市長 持続可能な「いつもの暮らしにシッアワセ」を感じるまちになるよう施策に工夫をこらして進める。